



利用者を深く知り ライフスタイルの変化に対応

今期で11期目を迎えた株式会社フィルケアは、住友林業株式会社のグループの一員として、「本当の家族のように寄り添う介護」をモットーに、首都圏で8カ所、静岡市・神戸市で2カ所の介護付有料老人ホームを運営しています。今回は、弊社が考える高齢期の理想の住まいについてお話しします。

住友林業は30年余にわたり、木造の注文住宅を建築してきました。戸建て住宅を建てるお客様に対して住友林業が大事にしてきたのは、その方がその家でどのように暮らしていくのかを考えた家づくりを提案することです。ライフスタイルは変化していくものですが、住宅は生活の基盤となります。住友林業の住宅は、変化するライフスタイルを受け止める住宅を提案していくことができたからこそ、お客様から評価されてきたのだと考えます。

翻って、われわれ高齢者住宅の事業者にも、同様のことがいえるのではないかと思います。高齢期の住まいにおいて最も大切なのは、ライフスタイルの変化に対応できるか否かです。高齢になったからといってライフスタイルが変化しないということはなく、むしろ壮年期より早く変化していくのではないのでしょうか。

元気な状態から、やがて軽度の介護が必要になり、重度の介護が必要となっていく。そこに対応できるソフトとハードが必要になってくるのです。要介護度の高い方への対応としては、介護のみが重要だと思われがちですが、実は違います。重度の介護が必要になっても、その方らしい暮らしを提案できることが大切なのです。

そのためには、自立していた頃や、介護度が低かった頃のその方を知っていただくはなりません。今、現場では、その方の趣味や嗜好まで熟知した職員による介護が求められているのではないのでしょうか。

私たちの事業展開において、これまでは終の棲家として介護付有料老人ホームのみを提供してきました。しかし、入居者や家族、そして入居者に対する熱い思いをもつ社員から話を聞けば聞くほど、介護の現場では、その方のことを深く知り、それを最後まで尊重す

ることのできる行動力が求められていると考えようになりました。

そこで私たちは、要介護度が低いうちからその方を知ることができるよう、介護付有料老人ホームの近くにデイサービスを開業しました。多様なライフスタイルの変化への対応を可能にしたいと、動き始めたところ です。

団塊の世代の高齢化が進むと、これまでの戦中・戦後の方々に比べ、個性が多様化するでしょう。そこで、ソフト面では、その方が元気なうちから理解に努め、要介護度が高くなっても対応できることが今後求められてくるのだと思います。

ハード面では、高齢化にともなう社会生活の狭小化への対応がポイントだと考えます。壮年期には、一日一歩も家の外に出ないという日は少ないと思いますが、高齢期に入るとそのような方も多いでしょう。そこで、高齢期における住まいのポイントとしては、住宅内をくまなく歩行できる程度の大きさで、かつ、プライベートスペースとパブリックスペースの両方があり、さらにその中間として、ご近所づきあいができるようなスペースが必要になってくると思います。

そこに、私たちが住友林業の住宅づくりで培ってきた居心地のよさが加われば、より心地よい暮らしを提案できるのではないかと考えています。

注文住宅のメーカーの使命として、高齢期に最適な暮らしを提案し、それとともに住友林業らしい居心地のよさを提供することが、株式会社フィルケアの使命だと考えています。

中澤 俊勝

なかざわ・としかつ

●PROFILE

株式会社フィルケア代表取締役社長。
中央大学法学部卒。住友林業株式会社(不動産開発建築担当)を経て平成23年4月より現職。

